

地域の木材を建築物の内装に使うことについて

技術部 生産技術グループ 松本 久美子

■はじめに

都市（まち）の木造化推進法等に基づき、公共建築物の木造化や木質化が推進されていることから、公共建築物には、構造材だけではなく、内装材にも木材、それも地域材が使われるケースが増えてきていると感じられます。建築物の内装に木材を使用した場合は、調達のスムーズさや価格、加工性などの他、利用する人が持つ印象や使用に関する意向が重要であると思われま

す。ここでは、平成23年度から実施している道産木材の印象評価と建築物への利用意向について紹介します。

■木が与える印象を評価する

林産試験場では、これまでトドマツ、カラマツや道南地方のスギを研究対象として取り上げ、住宅の他公共施設や病院、学校等の様々な建築物の内装として使用されたときの好ましさやその他の印象（温かさ、清潔感等）に関する調査を実施してきました。

これまで内装材として使用されてきた広葉樹材は、無節のものを使用するケースが大半であったため節のある内装材の印象を調査することとしました。白い木肌に茶色の節が点在するトドマツを取り上げて好ましさを調査しました。調査に使用した画像の一例を図1に、結果を図2に示します。

調査は、林産試験場のイベント開催時に来場者の協力を得ておこないました。図1のような画像を用いて、トドマツの節がないものから少ないもの、多いもの、その中間程度のもを提示して、好ましさ（好き-嫌い）を評価してもらいました。結果は、図2に示すように、住宅では、節が多くなるにつれて「嫌い」と評価する人が多くなりました。しかしながら、学校やホールなど、使用する場所が異なると、節が増えても好ましさは低減しない傾向が見られました。

この時、評価した人からのコメントでは、「ホールのような広い場所では節はそれほど気にならないと思う」「学校のような子供の過ごす場所では、天然の材料を使ってほしい」などがあったことから、節のような木質内装材（ここでは壁材）の表面の意匠だけではなく、使用場所により、好ましさの評価

は変わることが示唆されました¹⁾、²⁾。

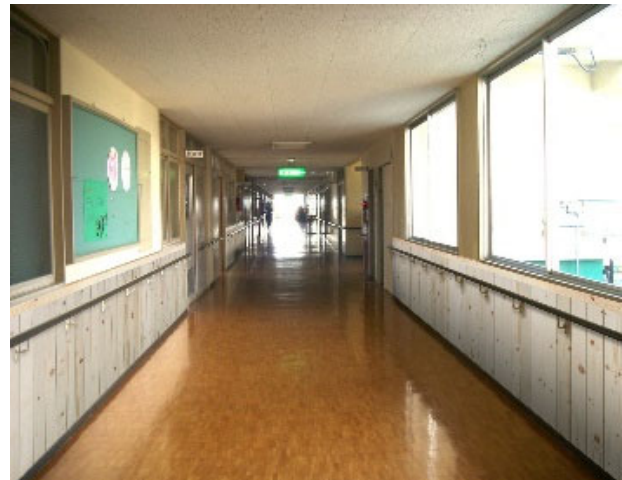


図1 調査に使用した画像の一例
上：住宅，中：学校，下：ホール

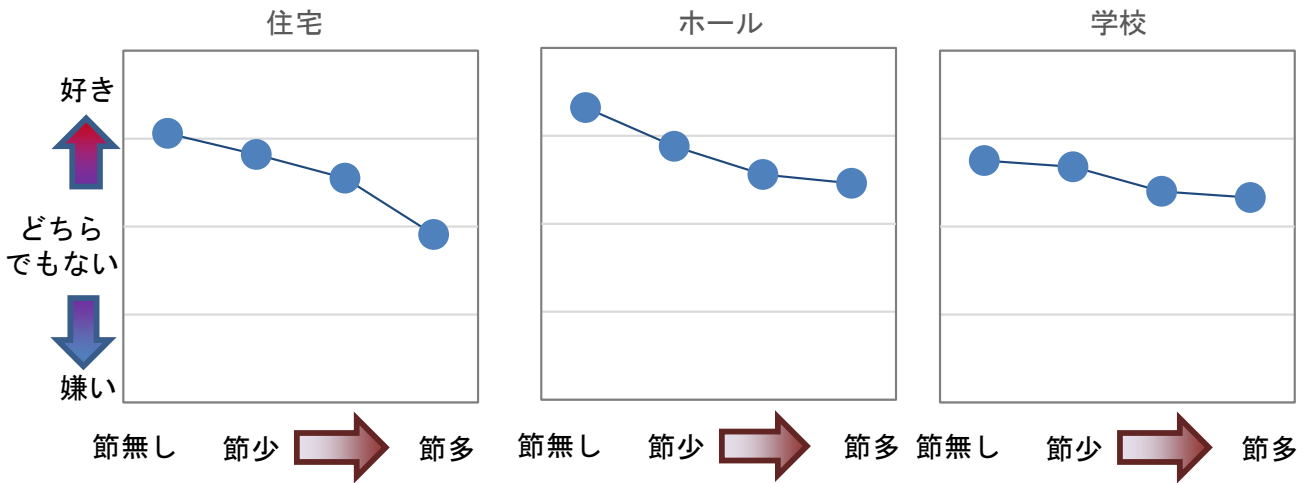


図2 トドマツを内装に使ったときの、節の量と好ましさの関係

節の他に、スギとトドマツを取り上げ、材色が室内の印象に及ぼす影響を調査しました。また、調査では、病院を内装材の使用場所に設定しました。病院の内装については、一般的には「白」というイメージ定着しています³⁾。そのような病院で木材が内装として受け入れられるのかを、図3に示すような画像を使用して調査をしました。

調査では、病室の他、談話室なども対象としました。写真のようにトドマツを病室で使用した場合は、トドマツの白い木肌が違和感なく受け入れられたことに加え、同じ色の壁紙と比較すると、木が天然素材で温かみがある、といったイメージもプラスに働き、多くの人が「温かみ」があって「好ましい」と回答しました(図4)。また、茶色い節が入っていても、今回の調査の範囲内では、それが「清潔感」の低下を招くことはありませんでした。



図3 調査に使用した画像の一例
上：トドマツ・病室
下：スギ・談話室

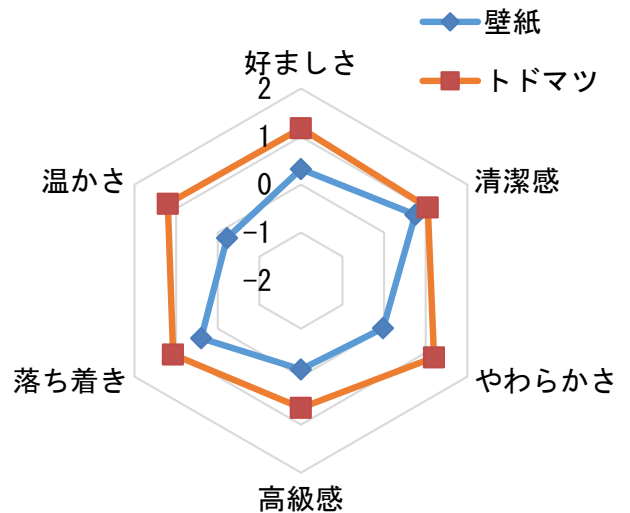


図4 トドマツ・病室の調査結果
青線はトドマツと同じ色合いの壁紙の結果

一方、スギについては、赤みのある木肌が「温かみ」を感じさせることや、赤みに白太が交じると活気のあるイメージとなることから、談話室など人の集まる場所で高く評価される傾向にありました。

これらの結果から、これまであまり木の使われてこなかった病院についても、利用者の高評価が期待できそうです。

■木を建築物に使うことについて、道民の思うこと

実際の建築物の内装に木材を使うことについて利用者となる道民はどのように考えているのでしょうか。

ここでは、イベント来場者に協力を得て実施した、建築物への木材の使用意向についての調査結果を紹介しします。

図5に学校やホールなどの公共建築物および病院において、木を内装に使うことについてどう思うかを、「積極的に使用してよい」、「使用してよい」、「条件によっては使用してよい」「使ってほしくない」、「何でもよい」の中から選んでもらった回答結果を示します。参考に図6に住宅、商業施設の結果についても示します。

結果から、木を建築物に使うことについて、「積極的に使用してよい」、「使用してよい」の回答が大半を占めており、この傾向は住宅よりも学校やホールなどの公共物件や病院で特に顕著でした。内装に木材を使うことについては、利用者へのコンセンサスが得られる、あるいは好意的に迎えられると

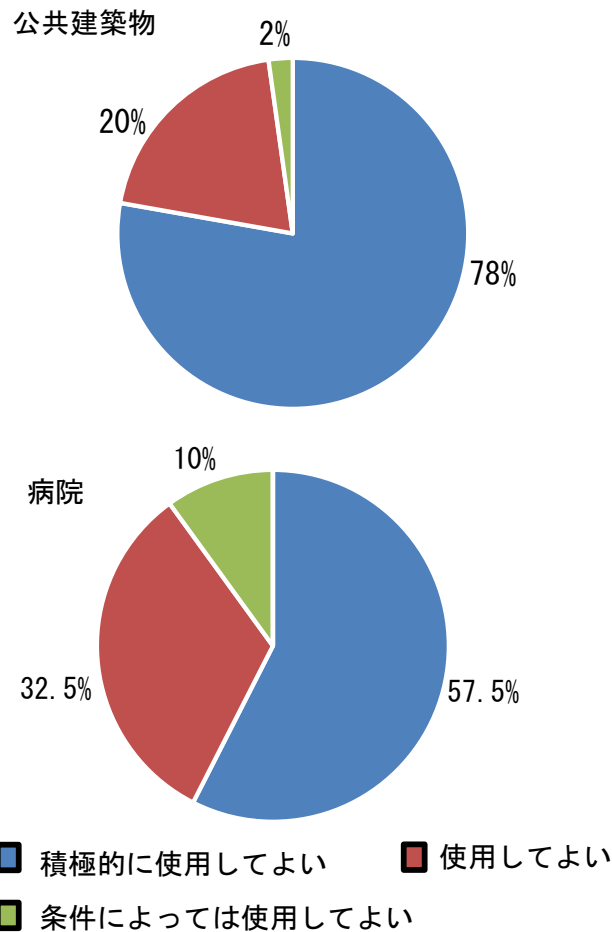


図5 公共建築物や病院への木の内装材の使用意向
※この他「何でもよい」「使用してほしくない」の選択肢があったが回答はなかった。

捉えることができます。

■おわりに

この調査を実施した平成23～27年頃は、内装材といえばまだ無節のものが主流で、ようやく本州ではスギ、北海道ではトドマツやカラマツなどの針葉樹材が内装材として目を向けられ始めたころです。そこから10数年が経過し、現在では、多くの建築物にトドマツ、カラマツが使用されていることは、当時から考えると隔世の感があります。このまま、地域の木材が、道民の日常に溶け込むように、自然な形で使われることを願っています。

■参考文献

- 1) 松本久美子, 川等恒治, 斎藤直人, 佐々木三公子, 川端康弘: 木材学会誌62, 42-48, 2016
- 2) 松本久美子, 川等恒治, 今井良, 斎藤直人, 佐々木三公子, 川端康弘: 木材学会誌62, 67-72, 2016
- 3) 江川香奈, 木村 敦: 日本インテリア学会論文報告集30, 25-29, 2020

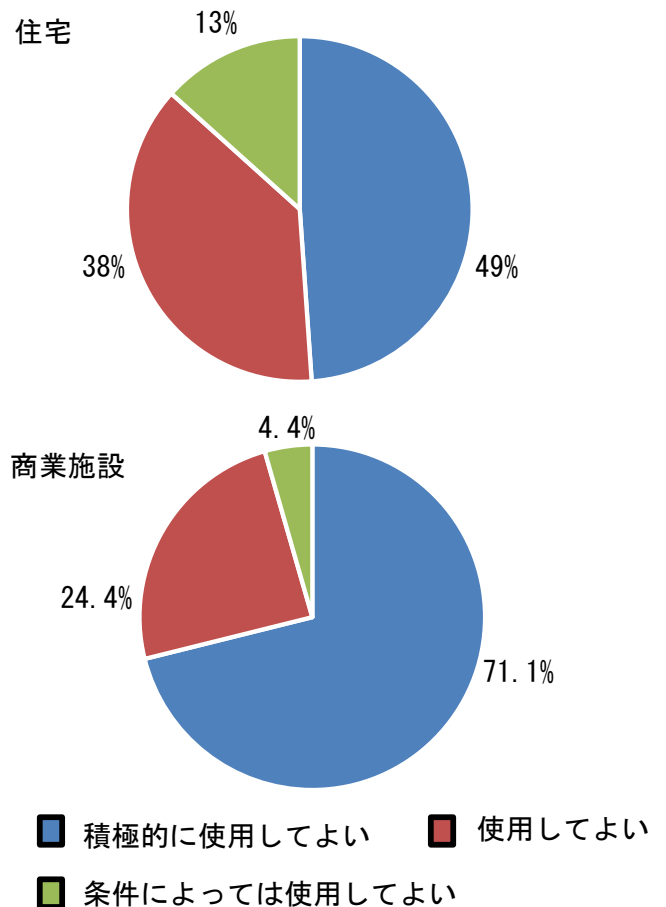


図6 商業施設や住宅への木の内装の使用意向調査
※この他「何でもよい」「使用してほしくない」の選択肢があったが回答はなかった。
※住宅の選択肢は「積極的に使用したい」「使用したい」「価格やデザインなどの条件によっては使用したい」